ライムやローストビーフ用モモ系に人気が出ている」と報告した。

また、CABアジア地域事務所の平山貴和シニアマネジャーはCABについて「アンガス牛の中でも高級肉質のプライムとトップチョイスだけが基準となっており、全アンガス牛の中でも4頭に1頭しか認定されていない。日本では高肉質牛が求められており、輸入量は倍増している。ジューシーで風味も良いので利用してほしい」と訴求。

このあと提案商品として㈱エスエーシジャパンがJBSのナチュラルビーフ「アスペンリッジ」について、「成長促進剤・抗生物質フリーで、アンガス牛を150～160日間穀物肥育。格付はプライム・チョイスに限定」と説明するとともに「JBSは米国に9工場を有し、いずれもハラル認定を受けている」と紹介した。

また、ハンナンはアイダホ州産のナチュラルポーク「麦そだち四元豚」について「LWDとチェスターホワイト種の4種類を掛け合わせた四元豚。成長促進剤や肥育期間の抗生物質使用を禁止している。麦中心の飼料で185～190日齢まで肥育しており、国産豚肉よりうまみ成分や赤身中の霜降り量が2倍程度多い」と強調した。

第2部の試食展示会ではティーアイが提案を強化しているCAB、ナチュラルビーフ（ホルモンフリー）、四元豚（ホルモンフリー）、加工品などが紹介された。

和牛プロモーション

英レストランショーで

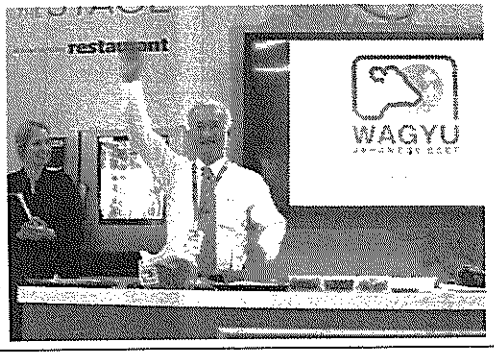
日本畜産物輸出促進協議会・牛肉部会は、10月3～5日にロンドンのケンジントン・オリンピアで開催された「The Restaurant Show London 2016」で、日本食文化との一体的なプロモーションや日本畜産物の特徴を生かす調理方法の提案を含めたプロモーション活動を行った。

開催2日目には特設中央ステージ枠を活用し、和牛の解説と現地有名シェフによる調理実演が行われ、日本からはエスフーズの山路良平・海外事業部長、ミートコンパニオンの植村光一郎常務取締役、日本畜産物輸出促進協議会事務局の菱沼毅理事長、櫻井研理事、大場義和氏が参加。

現地からはANZCO FOODS UK、Shield Foods、全農インターナショナル欧州、NH Foods UK、TAJIMA-YA UKなどが参加した。

菱沼理事長は開催にあたり、日本産和牛が唯一の純粋和牛であることを強調。その希少性、血統、厳格な格付制度、個体識別番号によるトレース制度、肉質の優位性を説明した。

グランドフロア内の日本産和牛ブースのミニステージでは連日セミナーと試食が行われ、植村常務は和牛の格付を品質グレードと歩留まりグレードに分け、分かりやすいように枝肉やロースの断面を示しながら説明。モモとロースの肉質と特徴にあった調理例を示し、すき焼き、焼きしゃぶ、バーベキュー、ステーキなどを試食として会場で提供した。



食べ方提案を含め和牛の特長をPRした

そのほか、現地日本食レストランのNasdai氏は和風ローストビーフ、創作すき焼きの実演と試食、現地有名シェフのDanielle氏は、現地の調理技法でローストビーフ、カルパッチョの料理実演と試食を行った。とくに部位、肉質を考慮した火入れで調理された、ロースとモモのステーキ試食には人気が集まり、和牛ブースの周囲は大変な人だかりとなった。

中央特設ステージでは、植村常務とDanielle氏がタッグを組み、植村常務が「和牛の統一マークが保証するもの」と題して日本産和牛の肉質特性、血統管理、飼養管理、トレース、格付制度を説明。Danielle氏がモモ肉を調理実演し、ローストビーフ、カルパッチョを振る舞った。

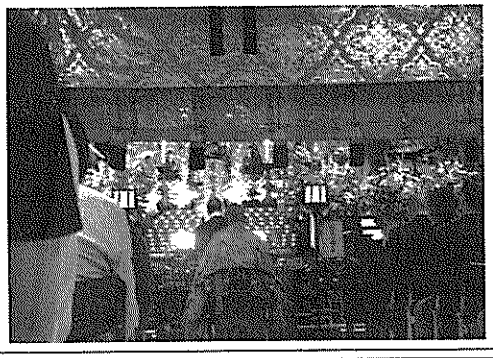
植村常務は「数件の精肉売り場を視察したが、並んでいるのはロイン系に限られていた。ただし、今回の実演で行ったモモ系のローストビーフやステーキ、カルパッチョなどは、来場した現地シェフから受けが良く、興味をもってもらえたことは大きな収穫だった」と感想を述べた。

家畜諸霊めい福祈る

大阪市場が畜魂祭開催

大阪市食肉市場㈱（杉本正社長）、一般社団法人大阪市食肉市場協会（同代表理事）は9月22日、大阪市天王寺区の四天王寺本坊で畜魂祭を挙行した。関係者およそ500人が出席し、8万5633頭の畜霊のめい福を祈った。

畜魂祭は10時に開始され、入場した導師たちが全員で読経。導師が焼香を済ませたあと、祭主である杉本社長が祭主祭文として「人間が陰に陽に、他の生物の恩恵によって生活を営むことができ、その犠牲によって生命をつないでいることを思えば、幾多の生物に対して何と感謝し、いかに報謝してよいか、その方途に苦しむ。たとえることのできぬ哀願の思いと、限りなき感謝の念。謹んで物故家畜諸霊に対し慶弔の意を表する」と読み上げた。


祭主として祭文を読み上げる杉本社長

続いて吉村洋文市長（代読）から祭文が読み上げられたのち、各方からの電報が披露された。再度、読経が行われ、祭主の焼香に続いて関係者が焼香を行い、家畜諸霊のめい福を祈った。